

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立小川小中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	項目別三者比較より、『学校教育目標の周知について』、保護者の達成率が67%と低かった。保護者は行事や授業参観等への出席率は高く、学校への関心も高い。学校教育目標の周知のために情報発信の機会を増やす必要がある。また、『授業はわかりやすいか』については、児童生徒の達成率が100%であったのに対して、保護者の達成率は50%であった。さらに、『家庭での学習は定着しているか』に関しても、保護者の達成率は33%とかなり低い結果となった。また、経年比較より、『一人一人を大切に学ぶ学級経営』や『みんなの前で自分の考えなどを発表できたか』など、児童生徒の学習・学校生活に関することについては、全ての項目の平均点で高い達成率を示した。今後も校内研究に全職員で取り組み、「スピーチタイム」の充実に加え、他校との交流授業も進化させるなど、この島の学校でよかったと思ってもらえる学校づくりに組織的に取り組んでいく。
------------------	---

2 学校教育目標	自立・貢献 ～ 未来へはばたく子どもたち ～
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	(1) 児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな学級経営の実践 (2) 確かな学力の育成と進路保障 (3) 児童生徒の問題発見・解決能力を育成し、自分の意見を積極的に表現できる児童生徒の育成 (4) 島を愛し、島の文化を大切に育む心 (5) 業務内容の見直しを通じ、やりがいと魅力のある職場環境の創造
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標 (数値目標)								
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得	○学力向上アクションプランの評価の平均が3以上	・教職員間でアクションプランを共有するとともに、校内研修等により授業研究会等を行い、取組の促進を図る。							
	○思考力、判断力、表現力の育成	○校内研究テーマに基づき、思考力、判断力、表現力を高める授業の研究に取り組んだ教師85%以上	・同じ校内研究テーマに基づいて小中がそれぞれに研究仮説を立てて研究を進め、授業の導入の研究やワークシート等の開発、個に応じた指導に取り組む。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳アンケートや人権集会などのアンケートに、自分の思いや考えを書いた児童生徒80%以上	・道徳や人権集会に関するアンケート、心の健康アンケートの実施 ・道徳科の授業づくりや評価に関する小中中部会等の実施							
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・いじめの認知・発覚に対する対応マニュアルを全職員で共有し、必要に応じて見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。							
	○地域について学ぶ授業や地域との交流活動計画し、郷土愛を育てる。	○アンケートにより、小川島の良いところや課題について、80%以上の児童生徒が記述することができる。	・島ならではの行事や島の方々の交流活動等を年間計画に組み入れ、担当者を明確にしておく。 ・地域と関連させた学習活動を通して、地域の課題について知り、その解決策等を考えさせる。							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康であるためには、まず食事が大切である」と考える児童生徒85%以上 ○朝食をとって登校する児童生徒85%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施(児童生徒と保護者対象に) ・保健だよりの発行(本校の健康課題を中心とした内容)							
	○基本的な生活習慣の育成	○自分に適した生活リズム(睡眠を含む)を知り、快適な生活を送ることができるような習慣を実行する児童生徒80%以上	・睡眠の大切さを知らせ、その「質」「量」を年間を通して身に付けさせる。 ・基本的な生活習慣の一つとしての快適な排便の重要性を知らせ、自らの健康を排便によって判断できるようにする。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・小中連携による部活動・社会体育の実施 ・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・業務の優先順位設定の推奨							
	○長期休業中を中心に、年休の取得を促進	○夏季休業中に、5日以上年休を取得した教職員が80%以上 ・年間10日以上年休を取得した教職員が80%以上	・日ごろから年休を取得しやすい職員室の雰囲気を作る。 ・長期休業中は、年休を平均で4日以上取得する。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)								
○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	○効果的なICT活用教育の推進 ○テレビ会議システムを活用した交流の推進	・ICT機器を活用した授業やスピーチタイム等を週に15時間以上行う。 ・小学校では、テレビ会議システムを活用した他校との交流授業等を年間15回以上行う。	・電子黒板やタブレットPCを操作する機会を増やす。 ・他の離島と連携し、テレビ会議システムを活用した授業やスピーチタイムを実施する。							
○児童生徒のキャリア観の育成	◎キャリア教育における汎用的能力である問題発見・解決能力及び表現力の向上に努め、自らの意思をしっかりと伝えられる児童生徒を育成する。	◎自ら設定した課題について、その考察や意見を分かりやすく、伝えることができた児童生徒70%以上。	・スピーチタイムやスピーチ交流会をはじめ、全ての教科、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせたり発表させたりする時間や場面を設ける。							
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・全職員向けに特別支援教育に関する研修会の実施する。 ・生徒指導協議会等ですべての児童生徒について共通理解を図る。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--